

令和五年「新年を迎え」



木古内町議会議長

又 地 信 也

町民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと存じます。共に迎えることができ、大変うれしく思います。

昨年は、町制施行80周年という歴史の年でもありました。町民の皆さまと共に木古内町の礎を築かれた多くの先人の方々に深く感謝申し上げます、愛する郷土木古内町を未来へ向けて誇りを持って託す事のできるよう、一層の努力を積み重ね、精進する決意を新たにいたしました。ありがとうございます。

昨年を振り返ってみると、世界情勢ではロシアによるウクライナ侵攻が続いており、国際社会に多大な悪影響を及ぼし、人類の平和と繁栄の行く末に暗い影を落としております。

一方では、全世界にまん延した新型コロナウイルス感染症は変異株に形を変え、終息の兆しが見えず、国民の不安が増大するばかりであり、国内経済

も低迷を続け、日常の生活は大変厳しく将来への生活不安を抱えている現状です。

また、昨年7月には安倍晋三元総理大臣が暴漢により殺害されるという事件もあり、悲報に国内は騒然とした年でもありました。

新年を迎えてコロナ感染症の第八波、インフルエンザの同時感染拡大が心配されており、その対策と対応が急がれておりますが、木古内町としても従来よりも増して喚起を促し、町民の安心安全を取り戻すよう努めなければなりません。いましばらくの辛抱と、町民の皆さまの特段の協力が必要です。この皆さまで特段の協力を必要とする厳しい環境を乗り越え、心の豊かさや日々の暮らしに喜びを実感できるまちづくりを進めていくため、町民の皆さまと協働し、さらなる自治力の向上に努めてまいります。

近年、全国市町村議長の懸念事項として議員のなり手不足問題が取り上げられてまいりました。木古内町議会

としてもその事を深く考慮し、昨年、議会改革特別委員会を設置し、13項目にわたる案件について審議をいたしました。主なる案件は、議員定数と議員報酬についての2件でありましたが、人口減少の推移、27年間議員報酬についての見直しがされていない等、議員各位の高度な識見のもと、議論を重ね、現状維持との結論に至りました。改めて町民の皆さまのご理解をお願い申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった議会懇談会を3年振りに開催し、全25町内会の各町内会長さまのお力をお借りして、複数の町内会合同での懇談会とさせていただきます。たださましたが、過去にないほどの多くのご出席をいただき、いろいろな角度から多様なご意見等を伺う事ができました。

また、地域の課題、要望事項等も寄せられ、後日、行政との協議・検討を行い、その方針等をお伝えする事としております。

昨年、3月26日、長い間の念願でありました茂辺地・木古内間(16km)の高規格道路の開通により、函館圏への大幅な時間短縮が図られ交通量が増大

しており、かつて交通の要衝として栄えた我が町にとって、明日へつながる明るい材料の一つです。交流人口の拡大は、町の経済に大きな起爆剤となるという利点をもたらすし、活気が生まれます。少子高齢化による急激な過疎化から脱却できる要素でもあります。

一次産業のより一層の振興を図り、地産地消を心がけ、道の駅「みそぎの郷きこない」を核とした広域観光の推進とあわせ、「松前半島道路」「江差・木古内高規格道路」の早期事業化、持続可能な北海道経済の救世主になるであろう第二青函トンネル建設要請等、行政と議会、町民が一丸となって進むべき道が開かれています。共に頑張りましょう。

今年はずき年、ポップ・ステップ・ジャンプで、この苦境を乗り越えたいものです。

結びに、ふるさと木古内町の限りない繁栄と、本年が町民の皆様にとって飛躍の年になりますことを心からご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。